

## スペイン教会に対する神のご計画

2010年11月14日 アシェル・イントレーター師

[今週末、アシェルはスペインのガンディアで、全国男性信者の総会で教えました。テーマは「聖霊の炎」、「スペイン教会に対する神のご計画」、「世代から世代への契約」、そして「終わりの時の勝利」などでした。]

1492年、3つの歴史的な出来事がスペインで起こりました。1)コルドバ条約(注) 2) コロンブスがアメリカ大陸に向けて出航、そして 3) スペインのユダヤ人追放です。

訳注: Treaty of Cordoba という言葉、また「コルドバ条約」という日本語訳は存在せず、正式名称は「アルハンブラ宣言条約 Alhambra Decree Treaty」又の名はユダヤ人「追放命令」「the Edict of Expulsion」と呼ばれる。1492年に当時のスペイン王であったフェルデナント王とイザベラ王妃が署名した「アルハンブラ宣言」の英訳全文は、以下の URL に載っています。スペイン本土にいるユダヤ人は、財産を置いてスペイン国外へ出よという非常に厳しい命令です。(http://users.mo-net.com/mlindste/alhambra.html) 英文です。また、次の URL には、その宣言書の写真が掲載されています。Wikipedia Alhambra Decree 参照の事。

([http://en.wikipedia.org/wiki/Alhambra\\_Decree](http://en.wikipedia.org/wiki/Alhambra_Decree))

紀元 640 年、ムハンマドは新しい宗教を興しました。紀元 700 年、イスラム教徒はスペインに渡り、武力による征服を開始しました。紀元 722 年までに、北部の山岳地帯を除く事実上スペイン全土がイスラムによって征服されました。この時、スペインのキリスト教徒(基本的に皆カトリック教徒)が反撃を開始し地の再奪取を試みました。この「レコンキスタ(国土回復運動)」は 1492 年まで続き、コルドバ条約調印によってキリスト教徒/カトリック教徒は全土の実権を回復したのでした。

レコンキスタの時期について霊的な意味合いを読み解くのは難しいことです。そこには良い要素と悪い要素が混在していたからです。カトリック教会内部において力と暴力という悪の要素が存在していましたが、そこにはキリスト教共同体がイスラムによる征服から自由を得るための、多くのキリスト教徒による純粋そして敬虔な努力もありました。1400 年代、スペイン異端審問による、ユダヤ教徒とイスラム教徒からの改宗者に対する過酷な迫害がありましたが、スペイン国内において真の力強い教会も存在していました。

この時期、多くのユダヤ教徒改宗者(「コンヴェルソ」)がいました。ある者は強要されて、ある者は心から改宗しました。多くの改宗者はユダヤ教の風習を継続しようとしていました。教会はそのような「ユダヤ化」要素を恐れ、教会内の階層に基づき「純粋性」を保つため異端審問を開始しました。異端審問において尋問された者の中で、一体何パーセントがキリスト教を拒絶していることを隠して強要された改宗をしたのか、そして何パーセントが真のユダヤ人信者で、ユダヤの伝統を維持したいと望

んでいたかを知ることが不可能です。1492年、スペイン王家とカトリックによる異端審問は一致してスペインからユダヤ人を追放しました。

同年、コロンブスはアメリカ大陸に向かって出航し、それに続いて2世紀に渡り、スペインとポルトガルは「新世界」を植民地化しました。この植民地拡大もまた霊的な条件において分析することは難しいことです。これにはまた良い要素と悪い要素が混在していたからです。植民地化の一部は強欲や政治的な力によって動機付けられていましたが、一部は神の御国の拡大という純粋な望みによって動機付けられていました。

これらの年にアメリカ大陸へ渡った者の多くがスペインやポルトガルからのユダヤ人でした。それゆえ、アメリカ大陸の植民地化と新世界でのキリスト教の拡大はユダヤ教徒の避難民と密接に関わっていました。事実、これらの3つの世界を変えた事件、すなわち、コルドバ条約はキリスト教徒によるスペイン再奪取の完了を表すものであり、コロンブスによって始められたスペイン人の探検の開始であり、スペインのユダヤ人の追放と離散であり、これらのことが同じ年に起こったことは偶然以上のものです。スペイン語を話す教会とユダヤ教徒に対する神のご計画は一つに織り合わさっているのです。

「教会」(エクレシア、イグレシア)の新しい契約的概念は、多くの人にとって理解するのが難しい上、理解するのに啓示が必要です。イグレシアはカトリック、プロテスタント、福音派、ペンテコステ教会またはいかなる特定できる団体を指すものではありません。それは、諸国、民族、言語に存在する人々の集団で、イエシュア(イエス)に対する信仰と神の霊の導きに従って生まれ変わりをした人々なのです。

多くのユダヤ教徒は「教会」という言葉を聞いたらすぐにスペイン異端審問を考えます。スペイン異端審問、十字軍そしてレコンキスタは、ユダヤ人やイスラム教徒だけでなく、誠実に求めているキリスト教徒自身にとっても、神の、真の教会に対する神のご計画を理解するつまずきの石を表します。

私たちに對する神のご計画を理解するには、多くの場合自分の歴史を見なければなりません。私たちの将来のために自由になるには、しばしば自分の過去から解放されなければなりません。世界の各国には真の信者の集団がいます。彼らは「レムナント」なのです。彼らが国の中にある真の教会なのです。すべての国の中にある教会、レムナントたちは皆、「諸国の、あるいは普遍的教会」、「メシアの御体」または「キリストの花嫁」と呼ばれるものです。各国のレムナントは自身の文化や表現に違いがあります。すべては共通の信仰、愛そして霊(黙示録 7:4, 9、エペソ 4:1-6)によって一致しています。

多様性と調和が一緒になり、それが「キリストの花嫁」を作り出すのです。そのような働きこそ神による芸術的手腕なのです。虹のように、色は違ってなければなりません、それは上空にかかる弧の形となって、一つにまとまってなければなりません。神の、創造の究極的目的は、主が愛することのできる人々を創ること（エペソ 1:4）、彼らと共に住まうこと（エペソ 2:22）、そして彼らを通して栄光を受けること（エペソ 1:22、2:7、3:10、3:21）です。この神の作品である集団はまだ創造の途中にあります（エペソ 2:10）。

スペインの歴史的な教会には良い要素と悪い要素があります。肯定的な要素と否定的な要素を持つ教会のビジョンは、長い「死」の過程を経てきました。この全国総会において、罪や過去の呪いを砕き、確かな神のご計画を再度採用するため預言的な祈りと宣言が成されました。

私たちはスペインとラテンアメリカの教会に対する召命を見ました。

1. 世界宣教の拡大
2. カトリック教会の変革
3. イスラム聖戦に対抗する
4. 真の聖書的な教えを望むこと
5. イスラエルに忠実である立場に立つこと
6. 地上の主による支配権を取ること
7. スペイン語諸国に対する神のご計画を宣言すること

どうかこの総会より、リバイバルと長期に渡る実がスペインの教会全体にわたって広がるようお祈り下さい。